第3章 本市の地域特性

本市は、大隅半島のほぼ中心に位置し、鹿児島市や鹿児島空港、志布志港等をつなぐ国道の結節点があることから、大隅地域の拠点都市として中心的な役割を果たしています。

温暖な気候や豊かな自然環境を生かした第 1 次産業を基幹産業として全国でも有数の食料供給基地となっており、中でも、肉用牛、豚、カンパチなどは国内トップクラスの産出額を誇っています。また、日本最大級のかのやばら園や国立大学法人鹿屋体育大学などの施設も集積しています。

交通面では、東九州自動車道の鹿屋串良 JCT~志布志 IC 間の開通により交通アクセスが向上したほか、市内全域に光ブロードバンド環境が整備されるなどインフラ整備が進んでいます。

1 自然的条件

(1)位置

本市は本土最南端へと伸びる大隅半島のほぼ中央に位置し、古くから大隅地域の交通・産業・経済・文化の拠点としての役割を担っています。

(2)地勢

市域北西部は、日本の自然百選にも選ばれ、森林生物遺伝資源保存林にも指定されている広大な「高隈山系」が連なる山林地帯となっています。

市域中央部から東部にかけては、国営第 1 号の畑地かんがい施設をもつ「笠野原台地」や「肝属平野」が広がり、平坦地が続いています。

市域西部は、鹿児島湾(錦江湾)に面した約 19km におよぶ美しい海岸線が続き、市域南部は神代三山陵の一つである「吾平山上陵」を有する山林地帯となっています。

(3)気温·降水量

直近 5 年間における年平均気温は約 17.8℃、年平均降水量は 2,960 ミリであり、1 年を通じて温暖な気候や豊かな自然環境に恵まれ、比較的暖かくて過ごしやすい気候です。

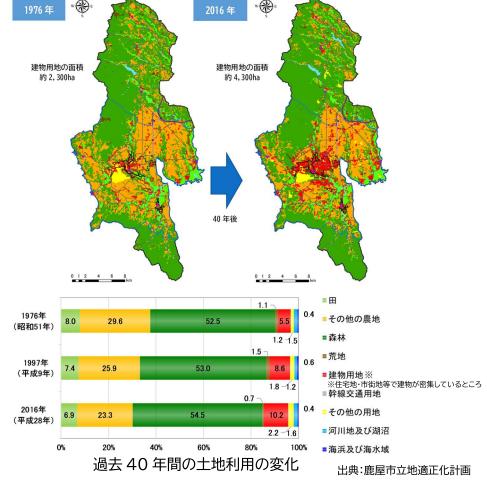


鹿屋市の月別の平均気温と降水量 (2018年から2022年の直近5年間データ)

(4)土地利用

本市の総面積(448km²)のうち、森林が 244km² と 5 割以上を占めており、二酸化炭素の吸収源でもある豊富な森林資源を有しています。

また、建物用地は過去 40 年で約2倍に増加し、市中心部から周辺地域に拡散しています。 今後、人口減少が進むなか、このままの状態で市街地の拡大が進行すると生活の利便性の低 下などが起きる可能性があるため、鹿屋市立地適正化計画に基づくコンパクトシティを目指し ます。



- 16 -

2 社会的条件

(1)人口

令和 2(2020)年の人口は 101,096 人となっており、平成 12(2000)年と比較すると 約 5 千人減少しており、令和 5(2023)年11月 1 日時点の推計人口は 98,640 人と10万人を割り込んでいます。

年代別にみると、15 歳未満の年少人口と 15 歳から 64 歳までの生産年齢人口は減少している一方、65 歳以上の高齢者は増加しており、今後も高齢化率は上昇することが予想されています。



年齢3区分別人口と高齢化率の推移 出典:国勢調査、鹿屋市調べ ※国勢調査では年齢3区分に入らない不詳層があるため、3区分と合計が合わない場合があります。

(2)世帯数

令和 2(2020)年の世帯は 46,139 世帯となっており、平成 12(2000)年と比較すると約 3 千世帯増加していますが、1 世帯当たりの人数は、減少傾向となっています。

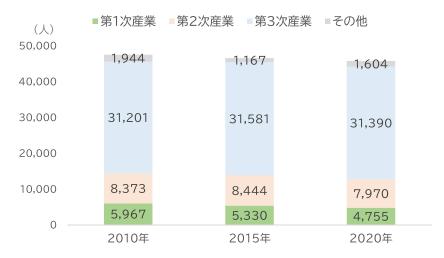


世帯数と1世帯当たりの人数の推移 出典:国勢調査

3 経済的条件

(1)就業者数

令和 2(2020)年における就業者数の構成割合は、農林水産業などの第 1 次産業が 10.4%、製造業などの第 2 次産業が 17.4%、卸売・小売業などの第 3 次産業が 68.7%となっています。第 1 次産業の割合は減少傾向にあり、第 3 次産業の割合は増加傾向となっています。



産業別就業者数の推移 出典:国勢調査

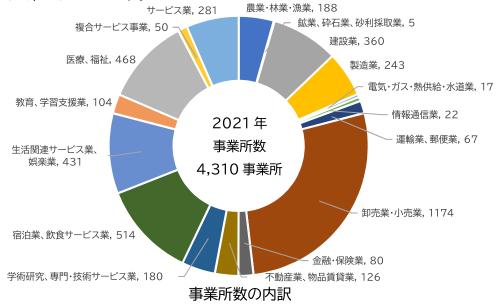
※産業別分類

第1次産業:農林漁業 第2次産業:製造業、建設業

第 3 次産業:電気・ガス・熱供給・水道業、運輸業、情報通信業、卸売・小売業、飲食・宿泊業、医療福祉 金融・保険業、サービス業、不動産業、 教育・学習支援業

(2)事業所数

令和 3(2021)年における事業所数は、「卸売業、小売業」が 1,174 事業所(27.2%)と最も多く、次いで、「宿泊業、飲食サービス業」が 514 事業所(11.9%)、「医療、福祉」が 468 事業所(10.9%)となっています。



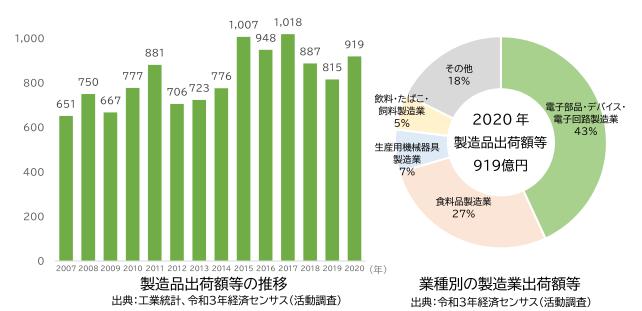
出典:令和3年経済センサス(活動調査)

(3)工業

製造品出荷額等は 平成 19(2007)年から概ね増加傾向にあり、平成 27(2015)年以降 は概ね横ばいで推移していて、直近の令和2(2020)年では 919 億円となっています。

内訳としては、一定の集積を持つ電子部品関連製造業や地域特性である豊富な農林水産物 を活用した食料品製造業などが多くなっています。



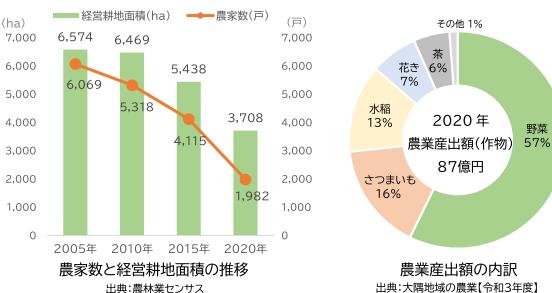


(4)農林水産業

■ 農業

温暖な気候や豊かな自然環境を生かした土地利用型の農業が盛んであり、さつまいも、 茶、ごぼう、ブロッコリー、キャベツ、だいこん、にんじん、水稲等が栽培されています。ピー マン、きゅうりは、県のブランド指定を受け市場から高い評価を受けています。

直近の令和 2 年では、経営耕地面積は 3,708ha、農家数は 1,982 戸となっており、 近年減少が続いています。



出典:大隅地域の農業【令和3年度】

出典:農林水産省 市町村別農業産出額(推計)

■ 林業

市域の約51%を森林が占めており、スギ材・ヒノキ材などの林産物の生産が行われています。森林には国が所有する国有林とそれ以外の民有林があります。

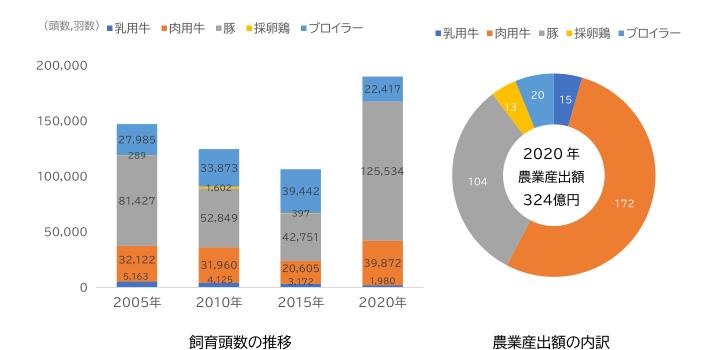
令和 3(2021)年度の主要林産物の生産額は 674 百万円、生産量は 51 千 m³となっており、近年、概ね横ばい傾向となっています。



主要林産物の生産額と生産量の推移 出典:統計かのや(令和4年度版)

■ 畜産

肉用牛や豚などの畜産業は、全国トップクラスの高い産出額を誇り、本市の基幹産業となっています。特に乳用牛・肉用牛については鹿児島県内で 1 位(令和 2(2020)年実績)を誇っており、県内有数の畜産地帯となっています。



- 20 -

出典:農林業センサス

■ 水産業

本市の西部は鹿児島湾(錦江湾)に面しており、古江港や高須港といった港を中心に海面漁業が行われています。特徴は養殖業が盛んで、その生産量は海面漁業全体のほとんどを占めています。特に、本市で養殖されるカンパチは全国 2 位の生産量(平成30(2018)年度実績)を誇ります。鹿屋市漁協の「かのやカンパチ」は、鹿児島県認定のブランド魚です。

また、内水面漁業では、生産量のほぼ全てをウナギ養殖が占めており、全国でも有数の 産地となっています。



魚種別生産額と生産量

出典:令和3年版鹿児島県水産物卸売市場統計年報及び市調査

(5)観光

鹿児島湾(錦江湾)に面した美しい海岸線や高隈山系などの豊かな自然、かのやばら園や輝北天球館、鹿屋航空基地史料館、串良平和公園、吾平山上陵など、多くの観光資源・史跡に恵まれています。

また、農泊(農山漁村滞在型旅行)や農林水産業体験などを行うグリーンツーリズム、戦争 遺跡を活用した平和学習、海岸線などの地形を生かしたサイクルツーリズムや錦江湾でのマリ ンアクティビティを楽しむことができます。

(6)公共交通

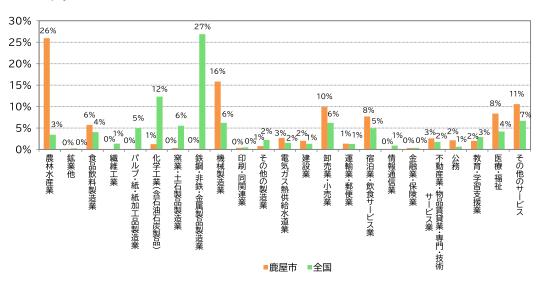
本市の公共交通は、①路線バス(鹿児島中央駅-鹿屋間直行バス含む)、②鹿児島空港行き空港連絡バス、③一般乗用タクシー、④コミュニティ交通(くるりんバス、かのや市乗合ワゴン)です。

路線バスの運行は、中心市街地にある鹿屋バス停留所(リナシティかのやバス待合所)を交通結節点に、大隅半島の各市町の行政施設や商業施設・医療福祉施設等を結び、放射状に大隅半島全域へネットワークを形成しています。

(7)エネルギー

■ 産業別エネルギー使用量

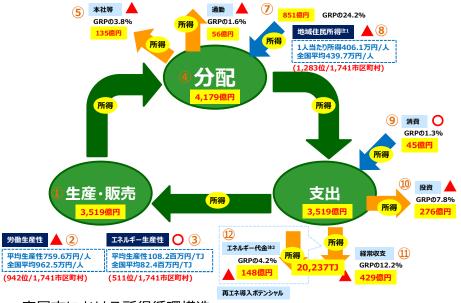
農林水産業が最も高く、次いで、機械製造業、その他のサービス業、卸売業・小売業の順となっています。全国平均の割合と比較すると、農林水産業や機械製造業の割合は高くなっています。



産業別エネルギー使用量の構成比 出典:地域経済循環分析(2018年度版)

■ 所得循環構造

- 本市では、エネルギー代金として域外へ 148 億円(うち、106億円が石油などの化 石燃料の消費)が流出しており、実質域内総生産(GRP)の 4.2%を占めています。
- 特に運輸部門、家庭部門と業務部門を合わせた民生部門では二酸化炭素の排出量が多く、石油などの化石燃料への依存度が高い状況です。
- 再生可能エネルギーの導入ポテンシャルは 20,237TJ であり、現在、地域で使用しているエネルギーの約 6.2 倍と豊富に存在しています。今後、石油などの化石燃料から再生可能エネルギーの活用に代替していくことで所得循環構造の改善につながります。



鹿屋市における所得循環構造 出典:地域経済循環分析(2018年度版)

4 地域特性(強み)のまとめ

本市の地域特性(強み)を以下のとおりまとめました。

今後、2050年のカーボンニュートラルの実現に向けて、地域の強みを生かしながら、市 民・事業者などあらゆる主体と連携しつつ、省エネルギー対策や再生可能エネルギーの導入 を推進し、地域課題の解決やまち全体の魅力向上を目指していきます。

主な地域の強み

- 鹿屋体育大学、串良平和アリーナなど健康・スポーツ施設が集積
- 全国でも有数の食料供給基地として肉牛やカンパチなど農林水産業が盛ん
- 土地利用のうち森林が5割以上を占めており豊富に存在
- かのやばら園、鹿屋航空基地史料館など豊富な観光資源
- 地域の消費電力を賄うことができる再生可能エネルギーのポテンシャルが存在

2050年のカーボンニュートラルの実現に向けて、地域の持つ強みも生かした省エネルギー対策や再生可能エネルギーの導入を推進することにより、地域課題の解決も図り、まち全体の魅力向上を目指します